

---

## 西南支部ニュースレター（33号）

2005年8月20日

---

### <内 容>

1. 2005年度支部例会の講演募集
  2. 2004年度支部総会報告
  3. 2004年度支部例会報告
  4. 後記
- 

### 1. 2005年度支部例会の講演募集

#### 平成17年度日本海洋学会西南支部例会講演募集のお知らせ

平成17年度日本海洋学会西南支部例会として、海洋気象学会・水産海洋学会と共催して、下記のような趣旨に基づき、九州沖縄地区合同シンポジウム：

#### 東シナ海の黒潮・対馬暖流と生物資源

を開催します。日程、開催場所は次のとおりです。話題提供者を募集しますので、講演希望者は募集要領にしたがって応募してください。

日時：平成17年12月7日（水）（西日本海洋調査技術連絡会議の翌日）

場所：鹿児島大学工学部

コンビナー：中村啓彦（鹿児島大学水産学部）、山城徹（鹿児島大学工学部）  
塚本洋一（西海区水産研究所）、種子田雄（西海区水産研究所）

講演時間：招待講演30～40分（1～2題）、一般講演15～25分（8～10題）  
（講演者数により時間を変更する場合があります）

参加登録料：無料

#### 趣旨：

水産学の主要な目的の一つとして、資源変動や漁場を予測することがある。これらの予測をサイエンスとして成立させるには、資源変動や漁場形成を支配している複雑なプロセスを1つ1つ理解しなければならない。その基盤となるのは、対象海域における海洋（物理・化・生物）学的な知見である。本シンポジウムは、海洋（物理・化・生物）学と水産学の調査・研究者が一堂に会して最新の知見を交換し、黒潮・対馬暖流系の海洋現象が東シナ海およびその周辺海域における資源変動や漁場形成などに果たす役割の理解を深めることを目指す。

東シナ海は、有用魚類の産卵・成育場として重要な海域であることが知られている。ここで産卵され孵化した仔稚魚の餌料環境や物理環境（水温・塩分など）、そして輸送経路を支配している代表的な海洋現象として以下のことを挙げる事ができる。すなわち、東シナ海大陸棚上での黒潮水や大陸沿岸水の化学・物理特性とその複雑な分布、また、様々なスケールでの流速場の時間空間変動、例えば黒潮前線波動に起因する低気圧性渦による水塊形成と海水交換過程、黒潮や対馬暖流による良好な成育場である九州沿岸への卵・仔稚魚の輸送過程や日本海と太平洋への輸送量の振り分け、などである。そこで、地先を含む東シナ海一帯における産卵・成育場や漁場形成および資源変動などに関する情報、また餌料環境に関わる栄養塩・動植物プランクトンの時間空間変動、大陸棚や九州沿岸域の流動と黒潮・対馬暖流の時間空間変動などについて、各種観測資料の解析、数値計算、理論からの幅広い話題を募集する。

### 一般講演の募集要領

締切： 9月15日（木）必着

事項： 講演題目、講演者所属・氏名、100字程度の概略要旨（fax、e-mail可）  
一般講演の採否結果は10月上旬までに通知します。

申込先： 〒890-0056 鹿児島市下荒田4-50-20  
鹿児島大学水産学部 中村啓彦  
電話 099-286-4100 Fax 099-286-4103  
e-mail [nakamura@fish.kagoshima-u.ac.jp](mailto:nakamura@fish.kagoshima-u.ac.jp)

### 講演要旨

締切： 11月30日（水）必着

書式： 日本海洋学会の研究発表大会の講演要旨に準ずる。

・A4版用紙2枚以内

・マージンは、上下端30mm、左右端20mm

研究題目、発表者、所属、キーワードを上段（30mm程度）に記入、本文は2段組が望ましい。図表は、本文の枠内に直接貼り付けてください。

送付： 郵送の場合は、上記の申込先住所に郵送してください（要旨集原稿」と朱筆）。電子メールに添付する場合は、PDFファイルの形式で上記の申込先e-mailアドレスへ送付してください（件名に「要旨集原稿」と記載）。

## 2. 2004年度支部総会報告

1. 長崎大学水産学部小会議室
2. 2004年12月9日（木） 12:10～13:00（合同シンポジウムの昼食時）
3. 総会出席者（順不同）  
松野健・山本憲一・神谷ひとみ・三宅武治・高柳和史・中田英昭  
石坂丞二・田中勝久・木元克則・岡村和麿・清本容子

### 4. 議 題

- （1）2005・2006年度支部役員（支部長、副支部長、幹事）の選出  
任期満了に伴う次期支部役員として
- |      |      |
|------|------|
| 支部長  | 中田英昭 |
| 副支部長 | 柳 哲雄 |

幹事 石坂丞二（事務局担当）  
 森永健司（水産海洋学会連絡担当）  
 神谷ひとみ（海洋気象学会連絡担当）  
 中村啓彦（2005年度例会担当）  
 高柳和史（2006年度例会担当）

が選出された。

（2）2005年度事業計画

ニュースレター33,34号の発行  
 支部ホームページの更新、維持管理  
 12月に鹿児島市で開催される西日本海洋調査技術連絡会議で「西日本地区・水産大学の平成17年度海洋調査実施状況と平成18年度実施計画」を報告  
 12月に鹿児島市で海洋気象学会・水産海洋学会と共催で地区合同シンポジウムを開催  
 12月に支部総会を開催

5. 報告

（1）2004年度事業報告

ニュースレター31号（6月）、32号（11月）の発行  
 支部ホームページの更新、維持管理  
 URL <http://kaimen3.esst.kyushu-u.ac.jp/swb.html>  
 西日本海洋調査技術連絡会議で「西日本地区・水産大学の平成16年度海洋調査実施状況と平成17年度実施計画」を報告  
 海洋気象学会・水産海洋学会・長崎大学水産学部と共催で地区合同シンポジウムを開催（12月9日）  
 「九州沿岸域の赤潮と貧酸素化の現状」  
 コンビナー：石坂丞二・中田英昭（長崎大学水産学部）・  
 高柳和史（西海区水産研究所）・神谷ひとみ（長崎海洋気象台）

（2）会計報告

収入	21,590円
前年度繰越金	7,490円
賛助金（2003年12月12日）	14,100円
支出	13,120円
郵送費	
ニュースレター31号（2004年6月14日）	6,640円
ニュースレター32号（2004年11月12日）	6,480円
次年度繰越金	8,470円

（3）会員異動

2004年12月現在の本支部会員数は地区外在住の日本海洋学会員および地区内外の非海洋学会員を合わせて322名である。ニュースレターを支部会員および西日本海洋調査技術連絡会議に加入している16機関および日本海区水研の担当者に配布している。ただ、上記322名のうち79名は新しい会員で、まだアドレスが整理されておらず、eメールでの送付数は現在162名、郵送は81名である。会員の異動は結構激しく、対応について検討を要する。

（4）支部会会長および事務局の移動について

（5）その他

-----  
上記会計報告以降 2005 年 8 月までに賛助金（1 口千円）をいただいた方々（順不同・敬称略）  
今脇資郎(2 口)、柳哲雄、松野健、山本憲一、神谷ひとみ、三宅武治、高柳和史、中田英昭、  
石坂丞二、田中勝久、木元克則、岡村和磨、清本容子、森永健司

---

### 3. 2004 年度支部例会報告

【日時】2004年12月9日(日)

【会場】長崎大学水産学部

【コンピナー】石坂丞二・中田英昭(長崎大学水産学部)・  
高柳和史(西海区水産研究所)・神谷ひとみ(長崎海洋气象台)

#### 【趣旨】

九州域では大村湾を始めとして多くの湾で 60 70 年代から赤潮および貧酸素化の被害が頻りに報告され、現在でも問題となっている。さらに、最近では以前は赤潮、貧酸素が余り報告されなかった有明海でもその被害が慢性化してきている。今回のシンポジウムでは、九州域での赤潮と貧酸素化に関して、これまでの研究をまとめるとともに、現在および今後の取り組み方に関して議論を行いたい。

#### 【プログラム】

10:00 - 挨拶

10:05 - 10:50 招待講演 九州海域における赤潮発生状況  
板倉 茂・渡辺康憲(瀬戸内区水研)

10:50 - 11:20 有明海の基礎生産構造  
清本容子(水研セ・西海水研)・横内克巳(水産庁)・田中勝久・木元克則(水研セ・西海水研)・熊谷香(福岡水産有明研)・梅田智樹(佐賀有明水振セ)・山本憲一(長崎水試)・黒木善之(熊本水研セ)

11:20 - 11:50 有明海の衛星クロロフィルと河川流量の関係  
石坂丞二・尾崎加奈子(長崎大水産)・万田篤昌・東家康晴(長崎大生産)・田中明彦・佐々木宏明(長崎県産業振興財団)

#### 昼食

13:00 - 13:30 有明海に出現する浮遊物質について  
石田 宏一(玉名地区ノ養殖指導員)

13:30 - 14:00 有明海湾奥部における貧酸素水塊の動態  
木元克則・田中勝久(水研セ・西海水研)

14:00 - 14:30 諫早湾における貧酸素水塊の発生について  
山本憲一・藤井明彦(長崎水試)・渡辺康憲(瀬戸内水研)

14:30 - 15:00 乱流エネルギー逸散率( )の計測に基づいた有明海底層における溶存酸素変化量の見積もり  
梅田 隆史・浜田 晃規(九大院総理工)・松野 健(九大応力研)

15:30 - 16:00 有明海北部海域の夏季洪水期における再懸濁と低酸素化 - 流動変動に伴う濁度・DOの変動過程 -

安田秀一(水大校) 松永信博 徳永貴久 阿部 淳(九大院総理工)・高島創太郎(国土環境(株)) 鬼塚 剛(水大校)

16:00 - 16:30 大村湾底層における貧酸素水塊の季節的・経年的動態  
中田英昭(長大水)・山田知代・宮田武史(長大院 生産)・山砥稔文(長崎水試)

16:30 - 17:00 討論

### 【概要】

平成16年度海洋気象学会・水産海洋学会・海洋学会西南支部会合同シンポジウムが12月9日に長崎大学水産学部で同学部との共催で開催された。今回のテーマは「九州沿岸域の赤潮と貧酸素化の現状」で、長崎大学水産学部の石坂丞二、中田英昭、西海区水産研究所の高柳和史、長崎海洋気象台の神谷ひとみがコンビナーをおこない、61名が参加した。

まず、瀬戸内海区の板倉茂博士が招待講演「九州海域における赤潮発生状況」で、九州海域では有明海をはじめとして2000年以降赤潮件数が増加しており、特に有明海で、発生件数が増加していることさらに近年今まであまり報告のなかった種による赤潮も増加していることを報告した。西海区水研の清本容子他は「有明海の基礎生産構造」で、これまでに有明海で測定された基礎生産のデータをまとめ、年間の有光層積算基礎生産量が600 gC/m<sup>2</sup>/year、特に沿岸河口域では1 kgC/m<sup>2</sup>/yearを超え、非常に高いことが報告された。さらに、長崎大学水産学部の石坂丞二他は「有明海の衛星クロロフィルと河川流量の関係」で、4年間の衛星クロロフィル a 濃度の変動と環境要因の関係について考察し、降水量とよく対応する一方、河川流量との対応は降水量ほどは良くなく、他の気象条件も関連している可能性について報告した。また、玉名地区の養殖指導員の石田宏一は、「有明海に出現する浮遊物質について」で、平成15・16年の5月上旬から中旬にかけて有明海の広範囲で浮遊物が出現した状況について報告した。

西海区水研の木元克則らは「有明海湾奥部における貧酸素水塊の動態」、長崎県水試の山本憲一らは「諫早湾における貧酸素水塊の発生について」、そして水産大学校の安田秀一らは「有明海北部海域の夏季洪水期における再懸濁と低酸素化 流動変動に伴う濁度・DOの変動過程」で、いずれも有明海での最近の貧酸素化について現場連続観測の結果をまとめた。そして、湾奥部の干潟縁辺部が貧酸素水塊の発生場所になっている可能性について、そしてその変動に気温と風速や降水が大きく影響していることを示した。一方、九大院総理工の梅田隆史らは、「乱流エネルギー逸散率の計測に基づいた有明海底層における溶存酸素変化量の見積もり」で、成層構造と溶存酸素量の変化の関係をあきらかにするために、乱流エネルギー逸散率と流速の実測値を数値実験と組み合わせで論じた。

さらに、長崎大学水産学部の中田英昭らは「大村湾底層における貧酸素水塊の季節的・経年的動態」で、大村湾では湾口から湾内への混合層の流入が貧酸素水塊の形成と終息に重要な役割を果たしていることを発表した。

これらの発表は有明海・大村湾では環境の悪化が依然として続いており、そのモニタリングと回復に向けて、関係者の協力が不可欠であることが議論された。

(報告者：石坂丞二・中田英昭・高柳和史・神谷ひとみ)

### 【参加者】61名

石坂丞二・山本憲一・宮下一明・清本容子・和田雅人・中田英昭・岡村和磨・田中勝久・増田裕二  
浜田千昭・川添幸太・松野健・藤岡紘・梅田隆史・石動谷篤嗣・細窪迅・野崎太・山下雄二  
上野祐子・万田敦昌・佐々木宏明・岡田喜裕・柴田和信・西昭雄・平野慶二・木野世紀・齋田倫範  
井上祥一郎・近藤博・松井隆・玉置昭夫・川見寿枝・松橋基・岩滝光・田中昭彦・安田秀一  
鷺見栄一・岡村奈美・清野通康・細江祐子・藤井理香・藤井昭彦・浅野蘭子・板倉茂・石田宏一  
木元克則・宅間和郎・高柳和史・三宅武治・小西一成・水向健太郎・鈴木利一・山砥稔文  
神谷ひとみ・坂口昌生・竹中英之・玉井大策・石井健一郎・細谷和策・湯浅もとこ・松岡雄二

#### 4. 後記

2001年度から九州大学応用力学研究所で運営されてきました事務局が、今年度から長崎へ移動となりました。慣れない点多いためご迷惑をおかけするかとと思いますが、よろしくお願いいたします。

毎年、支部の例会として水産海洋学会、海洋気象学会と共催している九州地区合同シンポジウムは、他の学会の方との連絡を取る貴重な場ですので、今後とも盛り上げて生きたいと考えておりますので、よろしくご協力ください。

本ニュースレターは支部会員および西日本海洋調査技術連絡会議会員機関へお送りしています。本支部は西南地区（山口県、九州8県）の海洋学の進歩普及を図ることを目的として海洋学会内に発足した組織ですが、地区内に在住しない方でも、海洋学会員でない方でも入会できます。地区外へ転出される場合、あるいは海洋学会を退会される場合でも支部への加入を継続することが可能です。この際に支部参加を継続する旨を事務局へお知らせ戴ければ、ニュースをお送りします。今後の転勤等に際して、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

また、経費および手間の削減のため、ニュースレターの配布はなるべくメールで行うようにしたいと思いますので、メールをお持ちであるのに関わらず紙で受け取られている方は、事務局にメールアドレスをお教えいただければ幸いです。

---

本ニュースレターに関するご意見や投稿したい情報等がありましたら、下記へお知らせ下さい。

日本海洋学会西南支部事務局  
長崎大学水産学部石坂研究室  
〒852-8521 長崎県長崎市文教町 14-1  
電話：095-819-2804 Fax：095-819-2804  
e-mail: [ishizaka@net.nagasaki-u.ac.jp](mailto:ishizaka@net.nagasaki-u.ac.jp)

日本海洋学会西南支部ホームページ  
<http://kaimen3.esst.kyushu-u.ac.jp/swb.html>

---